

国循 失神(気絶)外来のお知らせ

脳内科と不整脈科の総合的な診療が受けられます

『失神(気絶)は軽い病気ではありません』

失神(気絶、脳貧血)は突然起こる、短い時間の意識の消失を指します。

短時間とはいえ、脳全体の機能が大きく障害されて起こります。

原因として、色々な理由で心臓から脳に届く血流が減ることが考えられます。

自律神経障害が原因であることが多いですが、心臓疾患とくに不整脈が原因となることも少なくありません。また脳や頸部の血管が狭くなっていたり、一過性脳虚血発作(脳梗塞の前触れ発作)やてんかん発作などの脳疾患を失神(気絶)と見誤ることもあります。

失神(気絶)のため、自動車運転が厳しく制限されることもあります。

失神(気絶)はけっして軽い病気ではなく、原因を詳しく調べて正しく治療する必要があります。

国循には失神(気絶)の専門家がたくさん居ます

失神(気絶)は心臓疾患と脳疾患に詳しい医師が正しく診断すべき病気です。当院の脳血管内科・脳神経内科と心臓血管内科(不整脈科)の医師が連携することで、適切な診断と治療を、ご提供させていただきます。隣接する市立吹田市民病院脳神経内科(中野美佐部長、日本てんかん学会理事)とも連携し、てんかん患者さんの長期的ケアも行っています。

脳内科初診外来担当医師が初療致します

月	服部 頼都 医長
火	猪原 匡史 部長
水	古賀 政利 部長
木	豊田 一則 副院長
金	横田 千晶 医長

各曜日の不整脈科外来担当医師が必要に応じて併診など対応します
病状に応じて初めから不整脈科に紹介されても良いです

受診のタイミングは?

自律神経障害による比較的問題の少ない失神(気絶)と、心臓や脳の病気が原因の失神(気絶)とを正しく見分けるために、発作後早めの受診をお勧めします。とくに高齢の方、失神(気絶)を繰り返す方には詳しい原因精査を強くお勧めします。意識消失時間が長いほど、脳疾患が原因となる可能性が増し、このような場合も早めの受診が必要です。

どう手続きすればよい?

当院の脳血管内科・脳神経内科、不整脈科のどちらを受診されても、きちんと対応いたします。脳血管内科・脳神経内科の初診外来に「失神(気絶)外来」の枠を設けていますので、この外来を指定した場合は脳血管内科・脳神経内科医師がはじめに診察いたします。

頭部MRI、頸部血管エコー、チルト試験、長時間心電図、心エコー、脳波などの専門的検査を、病状に応じて外来あるいは入院で、不整脈科と連携しながら迅速に行います。危険な不整脈や脳梗塞を、決して見逃しません

【ご紹介いただく場合】

(月～金曜日まで、毎日ご紹介いただけます)
国循HP→病院→医療関係者の皆様へ→
患者さんを紹介いただく手順について→
診療予約依頼書(Excel)に「失神(気絶)外来診療希望」とご記入の上、専門医療連携室(06-6170-1348)へFAXでご送信ください。

【患者さんが直接来院される場合】

中央窓口1番(初診)に紹介状をお持ちいただき、失神(気絶)外来受診希望とお伝えください。



国立循環器病研究センター

National Cerebral and Cardiovascular Center

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6-1

TEL: 06-6170-1361 (連携室直通)

FAX: 06-6170-1348